

中村欣一郎市長の

# 山椒は小粒でも…



Vol.43

## サンショウハコツブデモ…



海のシリコンバレー、スマートアイランド、ワーケーション…このところ、カタカナが多いですね。

先日、鳥羽市は、鳥羽商船、三重大学、県水産研究所、そして通信事業者大手のKDDI株式会社、株式会社KDDI総合研究所と協定を結びました。海のシリコンバレーのスタートです。何の協定かというと、これまたカタカナ「海洋デジタルトランスフォーメーション(DX)」で水産業をはじめとする地域社会の振興に寄与しようというものです。ドローンを飛ばして上空から藻場や漂流ゴミの状況を確認したり、水中ドローンで水面下を調査し、藻類の生育状況の確認や食害対策に活用したり、海上に設置した実験システム「スマートブイ」を使って海況データをリアルタイムで知ることができたりします。漁業者にしてみれば、過酷な作業の改善や、養殖分野での効率化によ

り競争力が高まります。ひいては、最も課題である後継者不足の解決につながることを期待できます。



一方、スマートアイランドはというと、島の課題を民間企業の新技術で解決する取り組みのことで、例えば島に医師が渡れず、休日・夜間応急診療所まで待機しているときにも、医師と患者がオンラインでつながることができ、看護師が患者のそばで支援することで検査や処方が可能となります。また各島の診療所や本土側の診療所がグループとなること

で、医師がオンラインでほかの医師に患者の症状にあった意見を聞くことも可能となり、医療の質も高まることが期待されます。これは、各自宅が病室、各島が病棟、離島すべてをひとつの病院に例えることができます。これらの新しい取り組みは、国土交通省の採択を受け、これまた民間のセコム医療システム株式会社と実証調査を重ねてきました。

取り組みが最先端すぎて、今後、各関係機関と調整を必要とすることもありますが、新年度からさっそくスタートします。



山椒(鳥羽)は小粒(小さな自治体)でも、ぴりりと(独自色で)辛い(目立つ)。鳥羽で成功した実験が全国のモデルとなるよう、市一丸となつてがんばっていきます。



Vol.203  
市民課人権・市民交流係  
☎ 1126

### 無意識の差別

アフリカ系アメリカ人に対する警察の残虐行為をきっかけにアメリカで始まった人種差別抗議運動をBlack Lives Matter(ブラック・ライヴズ・マター)といいます。

白人警官による黒人の不適切な拘束方法による死亡事件から起こったこの運動は、黒人の命を軽視しているとの人種差別的視点から、これに抗議した人々が各地で暴動化し、スポーツ界など各業界にも展開していききました。

この抗議デモで特に問題視されたのは、身体能力、健康、学歴、年齢、生活形態、社会的スキルなどの有無により、ほかの多くのかたがたに比べて、発言力が限定され、社会的に著しく不利な立場に置かれているかたに対して、個人や家族の

所得を一定水準まで上げることでできる就労機会の提供や医療、住宅、教育などのさまざまな場面で、差別が常態化しているという点です。

また、この差別の常態化は、当事者達に、自分を取り巻く状況が、差別であると気付かせることを妨げ、また、たとえ差別に気が付き、声を上げたとしても、何かが変わるわけではなく人としての権利すらも奪つてしまっているのです。この運動の参加者は、そんな彼らの代弁者となったのです。彼らが訴えたのは、「肌の色に関係なく、全ての人が協同した社会を作ることが重要ということではないでしょうか。

コロナ禍により社会的経済状況がひつ迫した今、わたしたちの中に、知らず知らずのうちには生じた人との比較意識が、「差別」へと変わり、無意識のうち誰かを傷つけてしまっていることがあるかもしれません。自分は差別や偏見など行わないと思いつつも、こつこつとした無意識の差別や偏見で誰かを傷つけていないか常に自分自身に問いかけていく必要があるのではないのでしょうか。